17日　木曜

ルカ

13:1 ちょうどそのとき、ある人たちがやって来て、イエスに報告した。ピラトがガリラヤ人たちの血をガリラヤ人たちのささげるいけにえに混ぜたというのである。
13:2 イエスは彼らに答えて言われた。「そのガリラヤ人たちがそのような災難を受けたから、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い人たちだったとでも思うのですか。
13:3 そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。
13:4 また、シロアムの塔が倒れ落ちて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも罪深い人たちだったとでも思うのですか。
13:5 そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」
13:6 イエスはこのようなたとえを話された。「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えておいた。実を取りに来たが、何も見つからなかった。
13:7 そこで、ぶどう園の番人に言った。『見なさい。三年もの間、やって来ては、このいちじくの実のなるのを待っているのに、なっていたためしがない。これを切り倒してしまいなさい。何のために土地をふさいでいるのですか。』
13:8 番人は答えて言った。『ご主人。どうか、ことし一年そのままにしてやってください。木の回りを掘って、肥やしをやってみますから。
13:9 もしそれで来年、実を結べばよし、それでもだめなら、切り倒してください。』」

Bible Reference 聖書の記述

神殿で殺された人々、また事故で死んだ人々に関しては、律法主義のユダヤでは罪のゆえにさばかれて死んだとの考えがありました。日本でも因果応報の考えがあって、そのような目で見られて苦しむ人々がいます。

イエス様はそのような人々のことを、「罪深い人たちだとでも思うのですか。　…　そうではない。」と、因果応報を否定なさいます。それはこの世の苦しみよりもはるかに、死後の「滅び」のほうが恐ろしいものだからです。この世で自分には苦しみが少ないから悪い因果はないんだと安心していても、後に来るさばきと滅びを憂いて悔い改める必要があるのだとも言えます。

真理は私たちを悪しき因果から解放しますが、それと同時に全ての人に平等に臨む神のさばきを認め、そして全ての人に平等に与えられた救いの招きに応答する必要があるのです。

招きに応答するとは、これまでの不信仰を悔い改めて、神へと方向転換することです。それには悔い改めの「実」を結ぶ必要があります。主が「実を取りに来たが、何も見つからなかった。」ということのないように、そして「切り倒」されることのないように、信仰の実を結びましょう。今はあわれみの時なのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？